



科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)

<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

名は体を表す?

和名と同名

Japanese name and homonym

姫路科学館 指導主事 吉田 英史

秋といえば「食欲の秋」。いろいろな食べ物が旬を迎え、野菜や果物などの自然の恵みが多い季節です。ところで、みなさんの食卓に並ぶサツマイモには甘藷^{かんしょ}、ジャガイモには馬鈴薯^{ばれいしょ}というように別名があるのを知っていますか。このように日本では一つの種^{しゅ}に対して複数の名前がある場合や、逆に複数の種に対して同一の名前がつけられている場合があります。今回は日本で命名され愛用されている名前、すなわち和名についてご紹介します。

■和名 (Japanese name)

私たちが一般的に生き物の名称として使っているものを和名といいます。和名は学問規約的に規定された名ではなく、生物、鉱物や現象に対して習慣的に広く使われている名称です。例えば、ジャガイモと馬鈴薯は諸説あるものの現在では両者とも同一のものを指す和名です。また1年に何回も収穫できることから二度芋、三度芋という地方名がある地域もあります。サツマイモも別名、甘藷といわれていますが、海外から薩摩(現・鹿児島県)に伝わったことからサツマイモの名がつけられ、甘藷はサトウキビの(別名および中国語で)甘蔗^{かんしょ}と同音であり、産地も重複するためサツマイモという名称が広く使われるようになりました。国内ではこのように混同されてしまう種の名称ですが、学問的には世界共通の名称として国際的な規約に基づいた学名が用いられます。

■標準和名 (Common Japanese name)

学問的には学名を用いることで混乱を防ぐことができます。その種の学名と一対一になるように調整された和名を標準和名といいます。春の花にレンゲ(レンゲソウ)がありますが、レンゲの標準和名は「ゲンゲ」といいます。この場合、レンゲは通俗的に使われる和名となりますが、一般的にその方が知られ、標準和名が浸透していない場合もあります。

■同名 (homonym)

標準和名は植物だけではなく、動物などでも同様に定められています。その過程で、互いに同じ名である場合もあります。そのようなことを同名（同名異種）^{どうめい どうめいしゅ}といいます。植物命名規約と動物命名規約はそれぞれ独立しているため、植物や動物など、グループを越えたところで同一の和名がつけられ、同名の生物もいます。例として2つ紹介します。

(1) ミヤマクワガタ (植物と昆虫) 図1

高山植物のミヤマクワガタ (オオバコ科ルリトラノオ属 *Pseudolysimachion schmidtianum* subsp. *senanense*) は、昔の武具の^{かぶと}兜の装飾の一つで、前面につける^{まえたて}前立の一種 (鋏形)^{くわがた} 図2と植物の果実にV字型のがく片がついている形状が似ていることでクワガタ、また本州の限られた山奥にしか見られないことからミヤマ (深山) として命名されています。

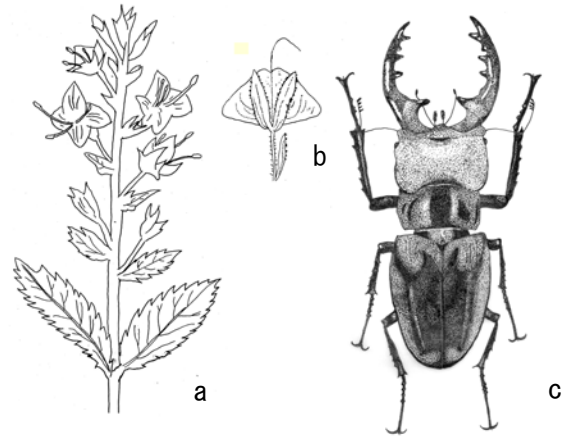


図1 ミヤマクワガタ a 植物 b 植物の果実 c 昆虫

昆虫のミヤマクワガタ (クワガタムシ科ミヤマクワガタ属 *Lucanus maculifemoratus*) は子供たちにも人気のある昆虫です。山間部に多く生息することからミヤマと名付けられ、クワガタに関しては植物と同じ由来で名付けられました。姫路市近辺では植物は見られませんが、昆虫の方は生息しています。また、同じようにヒメクワガタと命名された植物と昆虫もあります。



図2 兜のイメージ図
矢印が鋏形

(2) ヤマトシジミ (二枚貝と昆虫) 図3

二枚貝のヤマトシジミ (シジミ科シジミ属 *Corbicula Japonica*) は日本の固有種で、汽水域に生息し食用としても馴染みのある貝です。昆虫のヤマトシジミ (*Zizeeria maha*) は、貝を開いた状態と^{はね}翅を広げた状態が似ていることから名付けられたシジミチョウ (シジミチョウ科 *Zizeeria* 属) のなかまです。前述のミヤマクワガタと違うのは、一方が他方に似ていることから同じシジミという名をもつチョウのグループとなり、その中に同名の種が存在したということです。ヤマトシジミは貝、昆虫ともに姫路市近辺で見られます。

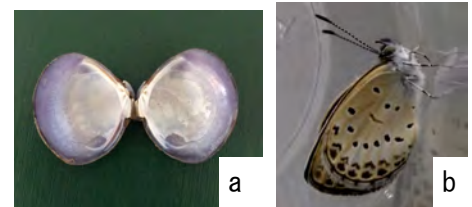


図3 ヤマトシジミ a 二枚貝 b 昆虫

また、ホトトギス (鳥と植物)、オオムラサキ・コムラサキ (ともに昆虫と植物) など、調べてみると同名の生物が数多くいますので、探してみるのも面白いかもしれません。

■ほかの和名

和名は、生物につけられるだけではなく、化石や鉱物、そして星にもあります。日本でも多く産出されるアンモナイトの化石は菊石と言われ、金剛石とはダイヤモンドのことを指します。今の自然科学は、あらゆる自然のものを観察し、国や地域独自の名をつけることから始まったといってもいいかもしれません。ミカンボシ、ミタラシボシなど、星につけられた和名も、どこで、どんな星に名付けられたのでしょうか? 『企画展 はりまの星・日本の星 (令和元年12月21日~令和2年1月19日)』でご紹介しますのでお楽しみに!